

エコアクション21 環境活動レポート



エコアクション21[®]

認証番号0000069



発行：2018年07月01日

活動期間：2017年度（2017年4月～2018年3月）

ミヤマ工業株式会社

〒418-0004

静岡県富士宮市三園平1355番地

TEL: 0544-27-4111(代)

FAX: 0544-27-3267

環 境 方 針

基本理念

「私たちは、小さな活動も未来の大きな成果へつながることを確信し、環境保全に取り組む」

方 針

当社の基本理念に基づき、金属部品加工・組付けを主とする事業活動を通じて、環境管理活動に取り組み、社会、地球環境との共生・調和をめざします。

1. 全ての事業活動を通じて、環境に与えている影響を捉え、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を定め、全社員が参加して環境活動の継続的改善を推進します。
又、必要に応じて見直します。
2. 環境関連の法規、条例を遵守し、環境汚染の予防に取り組みます。
又、エコアクション21の要求事項に準拠した規定類を制定し、運用します。
3. 具体的取り組み内容
 - ①温室効果ガス排出量を削減する（購入電力、化石燃料の消費量を削減する）
 - ②廃棄物の排出量を削減する（一般廃棄物、産業廃棄物の排出量を削減する）
 - ③水資源を削減する（上水道、地下水使用量を削減する）
 - ④グリーン製品の調達の推進する（材料含め環境に良いものを手配、購入する）
 - ⑤地域社会との共生をはかる（クリーン作戦等を実施する）
 - ⑥工程不良の削減をはかる。

☆ 緊急時、油・薬品等、環境に影響を及ぼさないよう予防処置をとります。

4. 環境教育・環境カード・ポスターなどで、全社員に環境方針の理解と意識の向上を図ります。
又、環境方針は、顧客、供給者及び一般社会へ必要に応じて、公開します。

認証制定日 2003年 10月 01日

改訂日 2013年 04月 01日

ミヤマ工業株式会社
代表取締役 社長

高 崎 尚 紀

○組織の概要

(1)事業者名及び代表社名

ミヤマ工業株式会社
代表取締役社長 高崎尚紀

(2)所在地

- ・本社工場
〒418—0004 静岡県富士宮市三園平1355番地
TEL:0544—27—4111(代)
- ・物流センター
〒418—0004 静岡県富士宮市三園平758—1番地
TEL:0544—21—1011
- ・第3、第4工場 (2010年度よりサイトを拡大し集計)
〒418—0002 静岡県富士宮市中原町48番地
TEL:0544—26—8199

(3)環境関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理最高責任者:代表取締役社長 高崎 尚紀
環境管理責任者(正):専務取締役 坪井 正信
環境管理責任者(副):常務取締役 片岡 駿介
担 当 者:エコアクション21推進事務局 渡邊 時男
連 絡 先: TEL 0544—23—8216 FAX 0544—27—3267

(4)事業内容

認証登録範囲及び事業内容
全社全活動が対象範囲
輸送用機器及び家電部品用、金属部品の加工製造販売

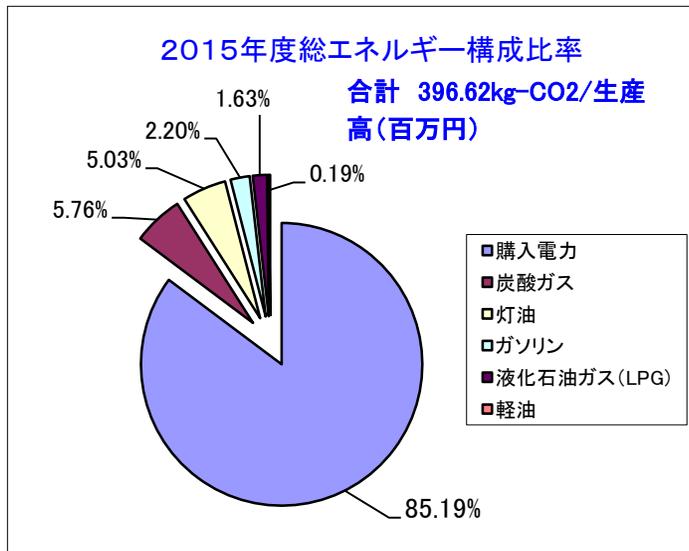
(5)事業規模 ※当社の年度は、4月から翌年3月です。

活動規模	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
生産高	百万円	3,629	3,498	3,786	3,965
売上高	百万円	3,763	3,668	3,945	4,142
従業員	人	184	182	177	173
床面積	m ²	8,960	8,960	8,960	8,960

1. 2017年度環境活動の取組み内容と取組み結果の評価【環境目標と実績】

(1) 温室効果ガス排出量

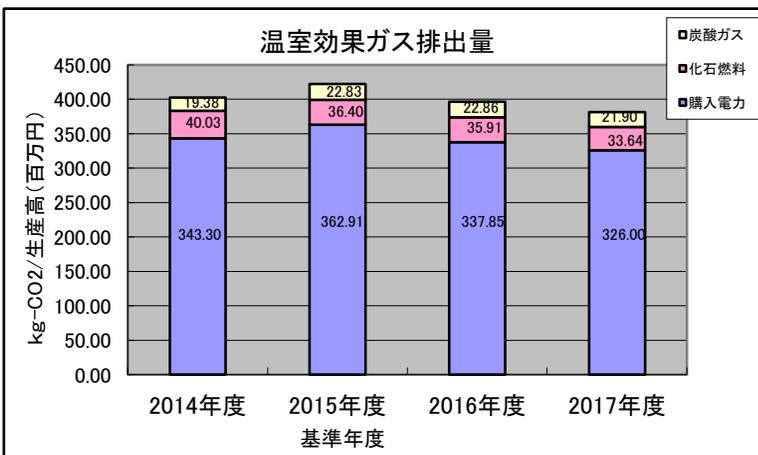
2017年度温室効果ガス排出量の目標は、近年の状況より2015年度実績を基準にCO2の排出量**1%減**とした。



項目	2015年度
購入電力	85.19%
炭酸ガス	5.76%
灯油	5.03%
ガソリン	2.20%
液化石油ガス(LPG)	1.63%
軽油	0.19%
計	100%

2015年の中間審査アドバイスもあり近年客先及び部品動向の大幅な変化のあった2015年度を目標基準年へと移行し、購入電力及び各資源の使用量を2015年度実績を基準に削減計画を立て活動しました。ただし、近年の製品動向等も刻々と変化しており、随時経営動向に注意が必要。

*購入力のCO2排出量は、東京電力㈱の電気事業者別実排出計数(0.000525t-co2/kwh)(平成25年12月28日発行)を使用。



目標	2015年度に対し -1%	
結果	削減率	-9.61%
	達成率	109.52%

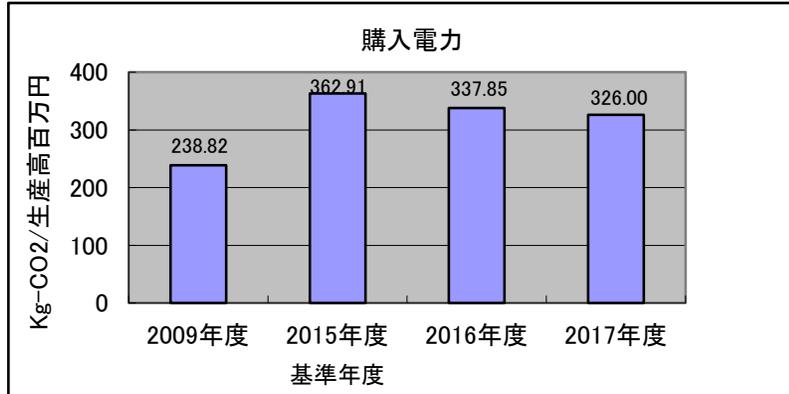
2017年度の温室効果ガス排出量は目標達成。
2015年度からは溶接部品等の製品動向が変化し、製品動向に合った、各活動項目の活動見直しを行う活動を実施をいたしました、継続した活動を行います。

(例) 2015年度基準に対する削減率 = $(2017年度(実績) - 2015年度(基準)) \div 2015年度(基準) \times 100$

(例) 2015年度基準に対する達成率 = $(2017年度(目標) \div 2016年度(実績)) \times 100$

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/百万円			%		
購入電力	362.91	359.28	326.00	-10.17	110.21	達成
化石燃料	36.40	36.0	33.64	-7.58	107.02	達成
炭酸ガス	22.83	22.6	21.93	-3.94	103.06	達成
計	422.14	417.88	381.57	-9.61	109.52	達成
総CO2量(kg-CO2)	1477719	1462942	1506907			
購入電力(kwh)	2419952	2395752	2452057			
燃料(L)	42763	42335	44263			

①購入電力CO2排出量



目標 2015年度に対し **-1%**

結果 削減率 **-10.17%**
達成率 **110.21%**

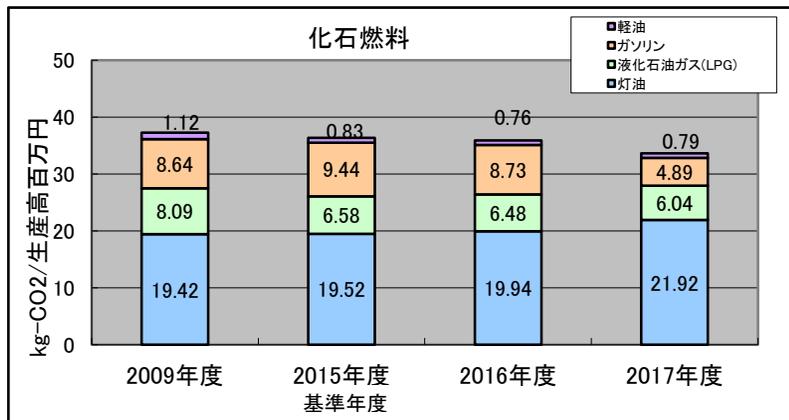
購入電力においては、2016年度に工場内の照明のLED化等が完了しました。今後は事務所等の間接部門のLED化推を推進いたします。

改善・削減項目	2017年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
購入電力の削減	昼休み、休憩時間の消灯、不在箇所は消灯する。	実施
	工場内照明を水銀灯からLED照明に変更する。/第二工場テント内照明を変更しました。	実施
	人センサーを利用し、必要なときだけ点灯、いなくなれば消灯する。	実施
	長時間使用しない機械の電源は落とす。	実施
	エアコンは省エネ温度(「気温と湿度の早退表」基準)に設定する。	実施
	パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定にする。	実施

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/生産高(百万円)			%		
購入電力	362.91	359.28	326.00	-10.17	110.21	達成

*購入電力のCO2排出量は、東京電力㈱の電気事業者別実排出計数(0.000525t-co2/kwh)(平成25年12月28日発行)を使用。

②化石燃料CO2排出量内訳



目標 2015年度に対し **-1%**

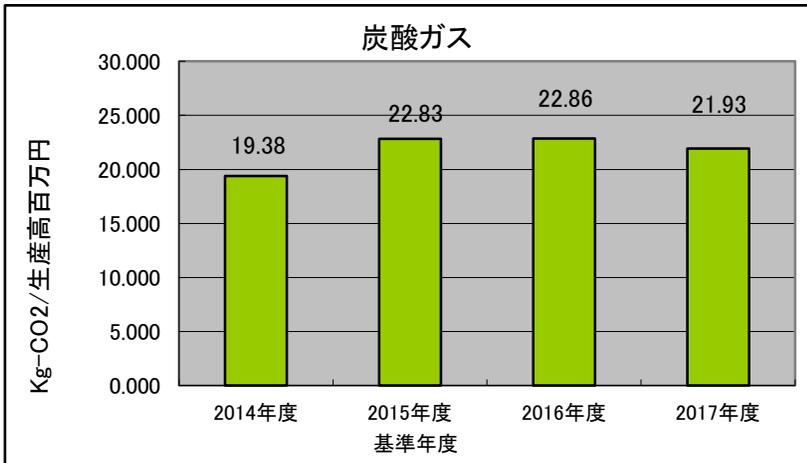
結果 削減率 **-7.51%**
達成率 **107.02%**

化石燃料排出量の削減率は目標達成。ただし、灯油の使用量のみが昨年より高くなりました。理由として、工場内にありました「固定式の大型LPGガス暖房機」の更新により、「移動式の灯油暖房機」の増設置による目標未達となりました。設備の入れ替えに伴う使用燃料の推移が変化いたしました。使用機にあった目標値の設定を検討いたします。

改善・削減項目	2017年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果	
灯油	灯油ストーブ、不在時はこまめに消す。休憩時間は指定した場所を使用する。	実施	
LPGガス	フォークリフト	急発信、急加速、空ふかしはしない。アイドリングストップの推進。	実施
ガソリン	乗用車	余分な備品は乗せない(乗用車)。毎日点検の実施。	

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/生産高(百万円)			%		
灯油	19.520	19.32	21.92	+12.30	88.14	未達
液化石油ガス(LPG)	6.580	6.51	6.04	-8.21	107.78	達成
ガソリン	9.440	9.35	4.89	-48.20	191.21	達成
軽油	0.830	0.82	0.79	-4.82	103.80	達成
計	36.370	36.00	33.64	-7.51	107.02	達成

③炭酸ガスCO2排出量



目標 2015年度に対し **-1%**

結果 削減率 **-3.94%**
達成率 **103.06%**

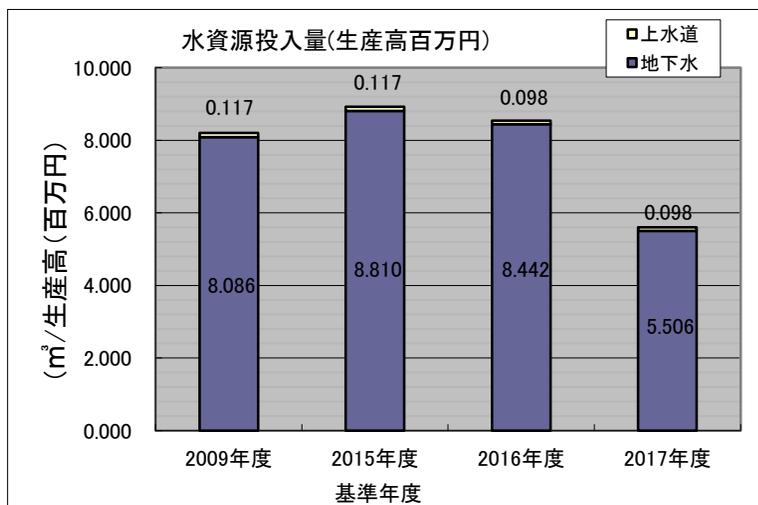
炭酸ガスにおいては、2015年実績1%削減を目標に活動、結果-3.94%の削減ができました。継続しての活動を行います。

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/百万円			%		
炭酸ガス	22.83	22.60	21.93	-3.94	103.06	達成

(2)水資源投入量

2017年度の水資源投入量の目標は2015年度実績を基準に**2.0%減**とした。

改善・削減項目	2017年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
上水道 地下水	水漏れ防止 蛇口水漏れを定期的に点検、保全する。	実施
	流量調整 水道蛇口内部に節水コマ、節水バルブを使用し流量を調査する。	実施
	流量調整 電磁弁の設置(機械稼働時のみ水が流動)。	実施



目標 2015年度に対し **-2.0%**

結果 削減率 **-37.22%**
達成率 **156.12%**

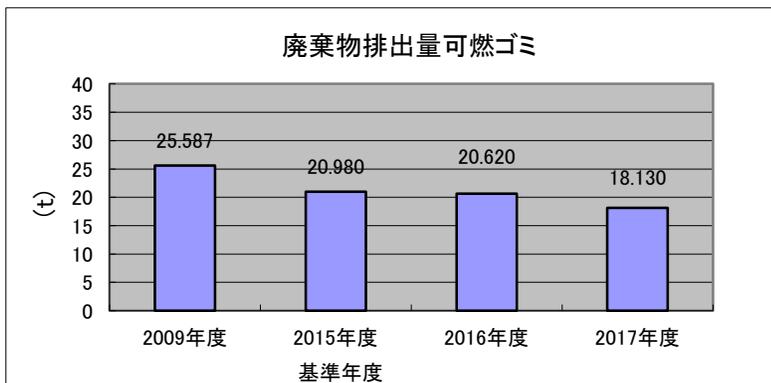
水資源投入量は、配管よりの漏れ点検を実施、大幅な削減となり削減目標を達成いたしました。今後は現在の水量の推移を監視。また、2018年度は削減目標の見直し年としたい。

	2015年度(基準)	2017年度(目標-2%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	m³/生産高百万円			%		
地下水	8.810	8.634	5.506	-37.50	156.81	達成
上水道	0.117	0.115	0.098	-16.24	117.35	達成
計	8.927	8.749	5.604	-37.22	156.12	達成
総量(m3)	31250	30625	21756			

(3) 廃棄物排出量：一般可燃ゴミ

2017年度の廃棄物排出量：一般可燃ゴミの目標は、2015年度実績を基準に**1%減**とした。

改善・削減項目	2017年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
ゴミの減量化	指定回収ゴミの分別実施/メーカーへの返却継続。 (ジュース缶、紙コップ類は指定の容器へ、不要なチラシ、パンフレット類は受け取らない、捨てない)	実施
	供給者及び納入荷姿の見直し、緩衝材の減量化を行う。 (1枚緩衝材を減らした、ダンボール容器をポリ容器の通いにした等)	実施
	機械の油漏れ対策を実施し、ふき取り(紙、布)ゴミを削減する。	実施
	ペーパーレス化へ、電子メールの奨励、ネット化、IT化へ移行の促進。	実施



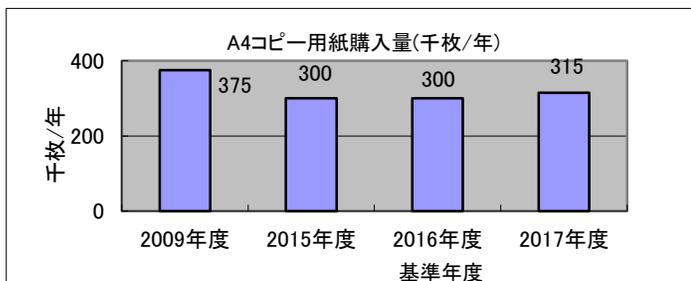
目標	2015年度に対し	-1%
結果	削減率	-13.58%
	達成率	0.00%

廃棄物「可燃ゴミ」の排出量の削減率は-13.58%、目標を達成しました。尚、2018年度は可燃ゴミだけでなく一般ゴミの廃棄物を2017年度から集計したダンボール、白上質紙、新聞紙等を含めた一般廃棄物全体として搬出量のデータ取りを実施、削減目標は、2017年度実績をもとに活動いたします。

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	t			%		
廃棄物排出量可燃ゴミ	20.98	20.770	18.130	-13.58	114.56	達成

【A4コピー用紙購入量の削減】

A4コピー用紙購入量は2015年度(基準)、5%増でした。引き続き、電子メールの活用、両面、縮小コピーの奨励等の活動を継続いたします。



	2015年度(基準)	2017年度(実績)	削減率
単位	千枚/年		%
A4コピー用紙購入量	300	315	0

(4) 産業廃棄物排出量

年	2009年度	2015年度	2016年度	2017年度
金属くず(t)	2525.90	1482.50	1984.80	2183.30
廃木材(t)	24.20	15.40	13.20	5.10
廃油(t)	4.64	15.60	6.77	3.51
ガラス陶磁器くず(t)	4.50	2.46	2.36	4.82
廃プラ(t)	0.74	0.75	0.63	1.10
蛍光灯(t)	0.06	0.04	0.07	0.05
*	*	*	*	*
合計	2560.0	1516.7	2007.8	2197.9
目標値	*	*	1501.2	1501.2
(年1%毎削減)	*	基準年	+32.38%	+46.41%

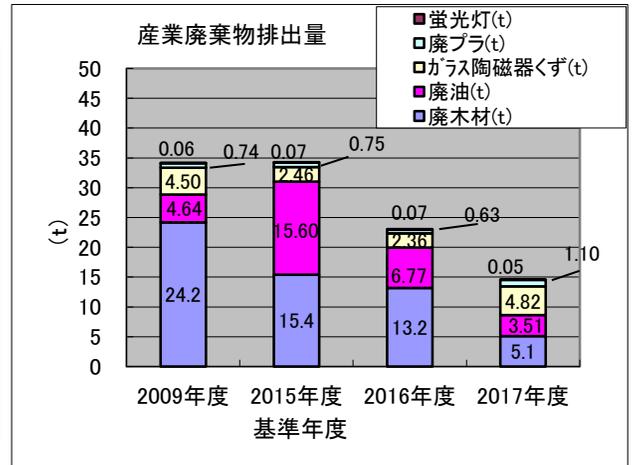
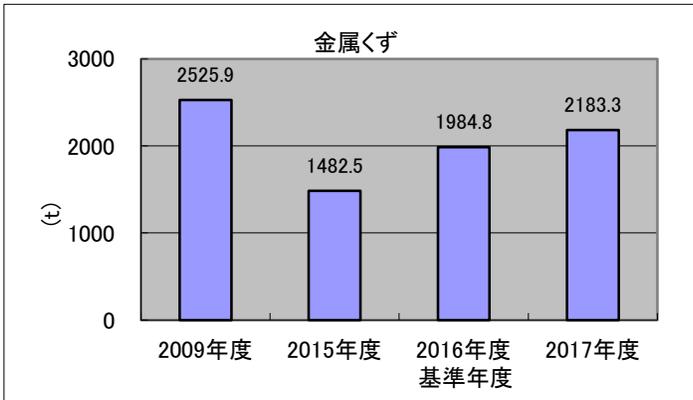
産業廃棄物排出量は、昨年同様2015年度と比較し、新規の部品受注が実施され、大幅な金属くず(スクラップ等)増が見られ、目標未達でした。尚、排出量の95.5%は再利用へ移行いたしました。また、近年の受注環境を考慮した目標立て及び継続した活動を実施いたします。(目標例：再利用率95%以上等、検討)

目標	2015年度に対し	-1.0%
結果	削減率	44.91%
	達成率	68.32%

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2017年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	t			%		
産業廃棄物排出量	1516.7	1501.5	2197.9	+44.91	68.32	未達

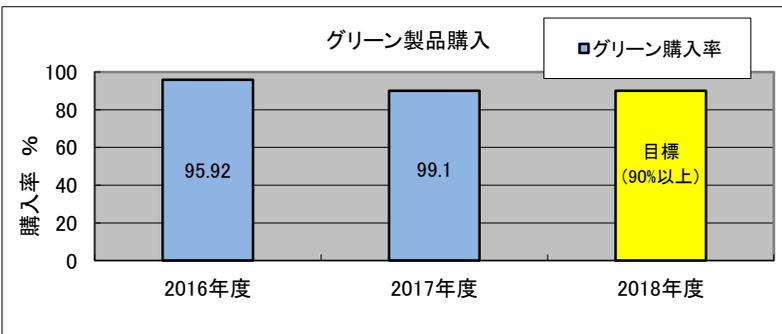
・ただし、2017年度排出量内、99.5%は再利用(2015年度/99.83%)いたしました。

改善・削減項目	2017年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
金属くず	プレスblankはスクラップの少ないレイアウト設計の推進及び工程内不良の削減。	実施
他の削減	廃油、廃プラ、廃木材、蛍光灯、ガラス、陶磁器屑の削減。	実施



(5) グリーン製品購入の推進

2017年度のグリーン製品購入の目標は、**購入率:90%以上**。



目標 クリーン製品購入 90%以上
結果 年間平均:99.1%

グリーン製品購入の90%以上の目標を立て、結果99.1%と目標を達成いたしました。
今後も継続して活動を実施いたします。

単位	2017年度	2017年度(実績)	達成率	結果
グリーン製品購入率	* 90%以上	99.1%	* %	達成

(6) 工程不良削減結果

2017年度の目標に対し、納入・社内不良ともに未達、受入不良は目標達成でした。

	2016年度			2017年度			結果
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	
納入不良計画(件)	12	14	85.7%	10	23	43.5%	未達
社内不良計画(件)	9	12	75.0%	6	10	60.0%	未達
受入不良計画(件)	36	39	92.3%	30	28	107.1%	達成

各項目ともに不良発生件数は、2017年度目標に対しては、納入不良及び社内不良は未達でした。
理由としては「人的要因不良」、人によるミスが目立ちました。分析結果より、要因は「手順の悪さ」、「作業不遵守」と対応策が「人に頼る」でした。よって対応策として「作業巡回・巡視」及び「工程FMEA活動(予測不具合防止活動)」で原点に戻る活動実施。

(7) クリーン作戦（地域社会との共生）

【工場周辺の清掃活動】 2回/年

地域奉仕活動として、工場周辺道路のゴミや雑草を除去した。

日付	2015/04/16	2015/11/13	2016/04/15	2016/11/18	2017/04/13	2017/11/17
清掃重量(kg)	221.0	110.5	255.0	146.0	218.5	143.0
参加人員(人)	50	53	51	50	45	53

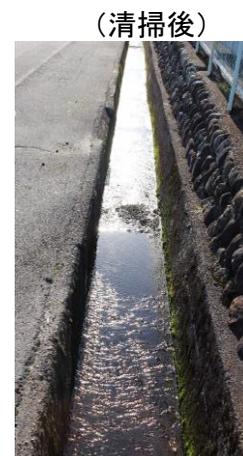
第1回目 2017年4月13日(木)

	本社	第3・4工場	物流センター	他	合計
草・ゴミ(kg)	185.0	7.5	1.0	25.0	218.5
参加人員(人)	35	3	5	2	45

第2回目 2017年11月17日(金)

	本社	第3・4工場	物流センター	他	合計
草・ゴミ(kg)	130.5	2.5	1.0	9.0	143.0
参加人員(人)	44	3	5	1	53

4月13日の様子
11月17日の様子



2. 教育訓練の実施

(1)【油汚染防止と対応】 汚染レベル及び階層別行動等の対応を、部署毎に教育・訓練した。

・「油流出時の緊急訓練」の実施

実施日時及び実施場所： 2017.08.24(水)/13:00～13:30・場所/本社工場南西廃棄物置き場

参加者：製造部、技術部、品質保証部、総務部、営業購買部/.....合計21名

講師：営業購買部 購買課/2名

(訓練の様子)



(2)【防火訓練の実施】 社内にて防火訓練を実施した。



・実施日・時 2017.12.01(金) 15:30～16:00	
・場所(本社工場)	
・講師/防火管理者	
部署名	参加人員
製造部	4名

3. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規は、月1回見直しを行い常に最新版として管理をしており、2017年度も、環境関連法規への違反、訴訟等は無く、県・市・関連機関から指摘はありませんでした。

法的義務を受ける主な関連法規は次の通り

総務部
最終チェック日
(2018/6/1)

法規・条例・規制	該当する遵守内容	遵守状況
労働安全衛生法	作業環境測定	○
	産業医の選任・届出	○
	衛生管理者の選任・届出	○
	安全管理者の選出・届出	○
騒音規制法	規制基準の遵守	○
	特定施設の設置・変更届	○
	公害防止管理者の選任・届出	○
振動規制法	規制基準の遵守	○
	特定施設の設置・変更届	○
	公害防止管理者の選任・届出	○
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物管理責任者の選任	○
	適切な許可業者(運搬・処理)との契約	○
	マニフェストの管理	○
	マニフェストの交付等状況報告	○
	処理委託先の実地確認	○
消防法	防火管理者の選任・届出	○
電気事業法	主任技術者の選任・届出	○
フロン排出抑制法	対象エアコンの簡易定期点検	○

4. 経営者による全体の評価と見直し

会議体、指標のモニター、データの集約等は、着実に実施されている。
 一方、大きな効果をもたらす活動アイテム/項目の発掘に成功していない。
 地道な活動(小さな活動)も継続することによって大きな差になるとは言え、
 特にCO2=使用電力の削減アイテムは、経済効果も含め、アイテムが必要。
 さらに次年度は、EA21-2017年版への移行の活動年としたい。

EA21 全体の取組状況の評価及び見直し

作成者: 高崎尚紀



2017年度 項目	達成/O 未達成/X								
	作成日: 2017.11.15			作成日: 2018.05.23			作成日: 2018.05.23		
	上期			下期			通期		
	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価
1. 基本環境活動:									
(1)温室効果ガス	-1.0%	-13.6%	○	-1.0%	-6.9%	○	-1.0%	-10.2%	○
(2)水資源	-0.5%	-22.7%	○	-0.5%	-53.7%	○	-0.5%	-38.3%	○
(3)廃棄物量	-1.0%	-19.3%	○	-1.0%	-27.5%	○	-1.0%	-23.4%	○
(4)グリーン購入	90%以上	99.4%	○	90%以上	98.9%	○	90%以上	99.1%	○
(5)地域との共生	1回/半期	4/13実施済	○	1回/半期	11/18実施済	○	1回/半期	2回実施済	○
2. エコ21活動運営状況:									
(1)会議体	毎月開催	6回開催	○	毎月開催	6回開催	○	12回開催	12回開催	○
(2)EM、規格等	見直し	見直し	○	見直し	10月環境(マ)	○	見直し	環境(マ)	○
(3)環境活動レポート	作成	作成	○	-	-	-	作成	作成	○
(4)内部監査	9月実施	9月実施	○	3月実施	2・3月実施	○	2回/年	2回実施済	○
(5)審査(中間・更新)	8~9月 中間審査	9/23中間 審査・合格	○	-	-	-	中間審査	受審合格	○
3. 前回の指示に対する 処置(実行された内容)	・前年度(品質)実績が、集計・分析され、それに基づき新年度の計画が、策定された。 ・工程不良の削減も認められた。			・上期の改善活動を集約、分析し、下期の計画の見直し。(主に品質向上活動)が、された			・後半にかけて、品質状況の改善は、見られた。 ・工程不良削減活動も目標値を過達できた。		
4. 活動に対する評価・指示	・上期で納入不具合を6件発生させてしまった。 ・非正常作業の削減の活動(アイテム)に停滞感があった。 ・証明のLED化等更新時また、計画的に実施している。			・下期は、当初の予測より販売/生産が、増加した。 ・目標(数値)は、全体的にクリアできた。			・諸々の活動(CO2、水、廃棄物)の数値的達成は、できたが、新規アイテムの創出に苦勞している。 ・一方、継続的活動は、できていると考える。		
5. 運営に対する評価・指示	・計画化された活動(会議運営資料等は、作成されている) ・但し、引き続き効果を持つネタ出しに苦慮している。 ・各部署は、ムラ・ムダの極みである不良の削減の効果的活動案をさらに強化する。			・会議体、モニター等は、着実に実施された。 ・会議体が、突発事項にて変更されるケースが、あったが、逐次(全体で)対応・順応できた。			・左記、同様、会議体や文書(エビデンス)は、しっかりと出来ていると思う。 ・以上の継続。		
6. 総括と次期への指示	・工程不良、非正常作業等品質に関わるムラ・ムダの削減に一層努力する。			・販売・生産増加によるムリムダ(特に品質に関わる案件)の撲滅へ向け努力する。			・LED化等継続的活動に加え新規活動ネタの発掘。 ・EA21-2017年版への移行準備/行動の開始。		

※ 上記の評価を行うに当たり、①企画室活動方針展開表、②マネジメントレビュー、③環境活動レポート、④ISO9001/エコアクション21推進会議議事録等を参照する。

5. 中期環境目標

2017年度環境目標は、2015年度実績を基準値に対し、下記の通りとする。

尚、環境目標の基準年を2015年度とした理由は、2015年度の「部品動向」及び「工場内の大幅な設備移転」があり、2015年9月の中間審査時の近年の業務内容に合った目標立ての見直しの時期とのアドバイスにより、基準年をそれまでの2009年度から2015年度としました。

(1) 温室効果ガス排出量 2015年度比 **-1%**

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2018年度(目標-1.5%)	2019年度(目標-2%)	2020年度(目標2.5%)
単位	Kg-CO2/生産高(百万円)				
購入電力	362.91	359.28	357.47	355.65	353.84
化石燃料	36.40	36.00	35.85	35.67	35.49
炭酸ガス	22.83	22.60	22.49	22.37	22.26
計	422.14	417.88	415.81	413.69	411.59

(2) 水資源投入量 2015年度比 **-2.0%**

	2015年度(基準)	2017年度(目標-2%)	2018年度(目標-3%)	2019年度(目標-4%)	2020年度(目標-5%)
単位	m ³ /生産高(百万円)				
地下水	8.810	8.634	8.546	8.458	8.370
上水道	0.117	0.115	0.113	0.112	0.111
計	8.927	8.749	8.659	8.570	8.481

(3) 廃棄物排出量: 一般ゴミ 2018年度よりの削減活動

	2015年度(実績)	2017年度(実績/基準)	2018年度(目標-0.5%)	2019年度(目標-1%)	2020年度(目標-1.5%)
単位	t				
廃却物排出量一般ゴミ	(20.98)	34.40	34.23	34.06	33.88

(*可燃ゴミのみ) *2017年実績を基準とし一般ゴミ全体の排出量削減活動を2018年度より実施。

(4) 産業廃棄物排出量: 2015年度比 **-1%**

	2015年度(基準)	2017年度(目標-1%)	2018年度(目標-1.5%)	2019年度(目標-2%)	2020年度(目標2.5%)
単位	t				
産業廃棄物排出量	1516.7	1501.5	1493.9	1486.4	1478.8

(5) グリーン調達 の推進: 購入率90%以上

	2015年度(実績)	2017年度(目標)	2018年度(目標)	2019年度(目標)	2020年度(目標)
単位	%				
グリーン製品	(46.51)	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上

(*購入品目増活動) *2017年度より購入率向上活動へ。

(6) 工程不良の削減: 下記

	2015年度(実績)	2017年度(目標)	2018年度(目標)	2019年度(目標)	2020年度(目標)
単位	件				
納入不良 計画	25	23	12	9	7
社内不良 計画	18	10	6	5	4
受入不良 計画	76	28	22	19	16

(7) クリーン作戦 地域の清掃活動を実施する: 2回/年

	2015年度(実績)	2017年度(目標)	2018年度(目標)	2019年度(目標)	2020年度(目標)
単位	会社周辺の草取り、ゴミ等の清掃活動				
清掃活動	年2回活動済み	年2回活動済み	年2回活動する	年2回活動する	年2回活動する

- 1.PRTR法による化学部質調査結果、該当する物質は含まれていませんでした。
- 2.製品及びサービスにおける環境配慮の項目は、材料のグリーン調達を推進することとする。

6. 2018年度環境活動計画の内容

(活動目標値は2015年度を基準とし

活動事項は節電、節水、LPガス・ゴミの削減、点検活動を「基本行動」と位置づける)

(1) 数値目標を達成するための取組み

- ① 二酸化炭素排出量の削減、2015年度実績値から**-1.5%**削減する。
 - ・昼休み、休憩時間及び不在時の消灯活動。
 - ・長時間使用しない設備、事務機器り電源切り活動。
 - ・パソコン及びプリンターの帰社時の電源切り活動。
 - ・冷暖房機の適正温度管理(冷房28℃/暖房22℃基準)による、節電活動。
 - ・扇風機で空気を拡散し、温度調整する(材料倉庫等)
 - ・エアコンのフィルター清掃し機能維持をはかる。
 - ・人センサーの取り付けによる、必要な時のみの点灯推進活動。
 - ・高効率蛍光灯器具(Hf蛍光灯・LED等)の準じ採用。
- ② 水資源の削減、2015年度実績値から**-3.0%**削減する。
 - ・日常点検にて水漏れチェックを継続する。
 - ・電磁弁による機械稼働時のみ冷却する、冷却水の流量コントロールをする。
- ③ 廃棄物排出量の削減、2017年度実績値から**-0.5%**削減する。
 - ・各部署から排出される物、及び取引先と梱包方法/資材等を継続して検討改善し、3R(リサイクル、リユース、リデュース)の活動を推進する。
 - ・尚、2018年度より、可燃ゴミのみだけでなく、一般廃棄物全体としての削減活動を実施いたします(白上質紙、新聞紙、ダンボール等含む)
- ④ 産業廃棄物の削減、2015年度実績値から**-1.5%**削減する。
 - ・プレスのブランクはスクラップの少ないレイアウト設計の推進と見直しの活動継続。
- ⑤ グリーン調達を推進する。
 - ・グリーン製品の**購入率90%以上**として活動する。
 - ・「RoHS」、「REACH」規制に対応した材料の調達を行う。
- ⑥ 工程不良の削減(各部の事業計画による)
 - ・次工程内不良の削減活動。
 - ・現場巡視ZD活動。
 - ・外製品質向上活動(外製指導)
- ⑦ クリーン作戦(地域社会との共生)。
 - ・クリーン作戦等の実施:工場周辺の清掃活動は、**4月と11月の年2回**を予定。
 - ・地域及び関連企業との環境活動の共有化、活性化を図る。

以上